

4. 危険度判定結果と実際との比較

6月30日時点では、迫川の事例では、国土交通省による応急対策の効果もあり、幸いにも天然ダムの急激な侵食とそれに伴う下流域での洪水氾濫は生じていないが、越流の開始日と浸潤線の到達日について、推定と実際を比較する。

表-6は推定と実際の比較したものである。表中の「-」は30日時点で確認できなかった事例である。越流の開始日については浅布地区の事例だけであるが、推定と実際は一致した。これは実際の水位の上昇速度から推定したことと、浅布地区の天然ダムの高さが低く、湛水池の水が天然ダムを乗り越える時間が短かったことによると考えられる。一方、浸潤線の到達日は実際には想定よりもはるかに早かった。湯浜地区と湯ノ倉地区の場合、水が天然ダムの下流端として想定した位置よりも上流側で湧き出していたことを踏まえると、天然ダムの表面が石礫で覆われており、表面近くでは水が想定よりも速く浸透する一方、複数の崩壊が一つの天然ダムを形成したことから、天然ダムの内部は均質ではなく、場所によっては水が透水しにくいところもあったことも要因となったと考えられる。

表-6 推定と実際の比較

天然ダムの地区	天然ダムの形状			地震前の河床勾配 [deg.]	推定		実際	
	高さ [m]	幅 [m]	長さ [m]		越流の開始日	浸潤線の到達日	越流の開始日	浸潤線の到達日
湯浜	45	50	1200	2.49	2008年8月3日	2013年2月24日	-	2008年6月26日
湯ノ倉	20	53	630	2.05	2008年6月28日	2011年5月30日	-	2008年6月29日
小川原	10	30	580	0.50	2008年6月17日	2015年7月14日	-	2008年6月17日
浅布	8	40	210	0.92	2008年6月17日	2009年9月6日	2008年6月17日	2008年6月16日